

三菱ふそう^{※1} 環境・社会報告書2008について

編集方針

三菱ふそうは、トラック・バスという公共性のある製品を世の中に送り出す企業として当社の環境保全の取り組み、社会活動などをステークホルダー（利害関係者）の皆様へ情報開示することを目的とし、環境・社会報告書2008を発行致します。

本報告書作成にあたっては、環境省発行の「環境報告ガイドライン（2007年版）」に基づいて掲載内容の充実を図るとともに、一般の方々にも読んで頂けるよう分かりやすさの向上に努めています。

報告対象期間

本報告書の対象範囲は、基本的に2007年（2007年1月～2007年12月）とします。ただし、各種法律や業界関連で年度をベースとした取り組みについては、2007年度（2007年4月～2008年3月）の実績データを報告致します。また、一部2008年4月以降の事例についても紹介致します。

報告対象範囲

主として三菱ふそうの日本国内における環境活動、社会活動を報告致します。環境活動については、企業活動全体を通じた環境負荷の低減実績やその活動について、トラック・バスの開発・設計、調達、生産、物流、販売、廃棄・リサイクルという流れで報告致します。

企業概要

シンボルマーク



商 号：三菱ふそうトラック・バス株式会社
(Mitsubishi Fuso Truck and Bus Corporation)

設 立：2003年（平成15年）1月6日

本 社：〒212-0058
神奈川県川崎市幸区鹿島田890-12

資 本 金：200億円

主な事業：トラック、バス、商用車その他の自動車並びにその構成部品、交換部品及び付属品の開発、設計、製造、組立、売買、賃貸、輸出入その他の取引業。ほか

従業員数：約16,800名（連結）（2007年12月末現在）

売 上 高：7,768億円（2007年1月～2007年12月）

ホームページアドレス
： <http://www.mitsubishi-fuso.com/>

※1 本書の中で、「三菱ふそう」は三菱ふそうトラック・バス株式会社を示します。

目 次

三菱ふそう環境・社会報告書2008について	P. 1
目次	P. 2
江頭会長ごあいさつ	P. 3
ブルストラー社長ごあいさつ	P. 4
Topics 環境新技術の紹介 エアロスター エコ ハイブリッドの開発・普及	P. 5
Topics 環境新技術の生産 三菱ふそうバス製造での環境取り組み	P. 9

環境マネジメント Environmental Management

環境指針	P.13
組織体制	P.14
環境サステナビリティプラン	P.15
ISO14001 への取り組み／緊急時対応など	P.17
環境会計／社内教育・啓発	P.18
コミュニケーション／関連会社の取り組み	P.19
自動車の一生と環境負荷	P.20

環境負荷低減への取り組み Environmental Performance

開発・設計	P.21
調達	P.28
生産	P.29
物流	P.33
販売	P.35
リサイクル	P.36
海外関連会社の取り組み	P.37

社会活動 Social Responsibility

企業倫理	P.39
品質向上	P.41
お客様との関わり／人にやさしい製品の普及	P.44
従業員との関わり	P.45
福祉活動／その他の社会活動	P.47
地域社会への貢献	P.49
製作所レポート(2007年度実績)	P.51
編集後記	P.54

環境・社会活動と企業活動の調和を目指します

三菱ふそうは企業活動を次の3つのフェーズとして捉えて推進しています。

まず、第1フェーズで過去の品質問題の洗い出しを行いました。現在さらに組織化された新たなビジネスシステムとプロセスを構築しています。例えば「品質保証本部」の職制を変更し、市場との情報交換の質の向上や問題解決の迅速化を図りました。

第2フェーズでは、お客様のニーズに焦点を絞り、効率性と収益性を向上します。昨年、国内の26の地域販売部門を11部門に統合しました。現在、関連会社を含む全社をあげて利益率の向上等を目指しています。

第3フェーズは将来に向けた準備です。市場、製品、人材等を充実させ、効率性の高い組織を実現します。

以上の3つのフェーズは同時進行させていきます。

企業活動を行う中で、環境保全の重要性については言うまでもありません。弊社は人・物の輸送という重要な使命をもつ交通手段を社会に提供する一方で、CO₂などのガスを排出したり、貴重な資源を使用したりすることで環境に負荷をかけていることを認識しています。先日のG8洞爺湖サミットで、世界各国が温暖化防止の議論を繰り広げる中、弊社が会場移動用シャトルバスとして提供した大型ノンステップ路線バス「エアロスター エコ ハイブリッド」は、地球温暖化防止に対する先端技術開発の重要性を示唆する三菱ふそうの強いメッセージです。

製品、工場での省エネはもちろん、調達、物流における取り組み、さらにエコドライブ・エコ通勤の推進など、車のライフサイクル全体を通して地球温暖化の防止に取り組んでまいります。

昨今弊社は、社内組織として「企業渉外・環境部」を新設するとともに、新たに担当の副会長を迎えるなど、体制を強化し、今後の環境活動、社会活動にいっそうの充実化を図ってまいります。

燃料費、材料費等が高騰し厳しい経営環境が続くなか、環境保全、社会貢献活動についても手を抜くことなく、適切に企業活動とのバランスをとりながら推進していくことで、社会の皆様とともに持続可能な社会を構築していくことにお約束致します。



三菱ふそうトラック・バス(株)
取締役会長(代表取締役)
企業倫理担当役員・CBEO

江頭 啓輔

江頭 啓輔

ダイムラー・トラック部門の概要

ダイムラー・トラック部門における三菱ふそう

ダイムラー・トラック部門には3つの強力な車両ブランドがあり、部門全体の販売台数は世界一です。

その中核を担うのが欧州市場を中心に活躍するメルセデス・ベンツ、北米市場を中心に活躍するフレイトライナー、そして日本・アジアを中心に活躍する三菱ふそうです。



Mercedes-Benz

欧州および南米、中近東において高性能商用車ブランドとしての存在を不動のものとしている「メルセデス・ベンツ」。その輝かしい歴史を背景に、安全・環境技術において世界の最先端をリードし続けています。



A DaimlerChrysler Company

傘下に数多くの商用車ブランドを有する、北米随一のトラック製造企業「フレイトライナー・グループ」(本社：オレゴン州)。現在、北米、カナダ、メキシコ市場向けに、高品質の製品・サービスを提供しています。



1932年にB46型バス「ふそう」を製造してから75年。現在、アジアをはじめとして世界中に認知されるブランドへと躍進。品質・技術・サービスのすべてにおいて「お客様第一」を目指して、走り続けています。

“All for you”を合言葉に環境・安全性を極めます

2008年8月1日、弊社の川崎工場の中に「グローバル ハイブリッド センター」が発足しました。従来から、三菱ふそうはダイムラー・トラック部門における商用車ハイブリッド技術の「コンピテンス センター」として活躍してきましたが、今回の変更により、ハイブリッド担当エンジニアが約2倍の35人程度に増強されるとともに、三菱ふそうがダイムラー・トラック部門全体におけるハイブリッド商用車の開発や活動を管理していくこととなり、私たちの役割が拡大しました。

先日G8に提供したシリーズ式の大型ノンステップ路線バス「エアロスター エコ ハイブリッド」は重量車モード燃費5km/ℓという破格な低燃費を実現しました。また、電気モーターだけで走行するので乗り心地も良く、音も静かで皆様から好評を頂いています。

一方、弊社は「安全技術のシンボル」として、大型トラック「新型スーパーグレート」をベースに、セーフティコンセプトモデル「セーフティトラック」を開発し、6月に発表しました。これには、近く商品化が予定される衝突被害軽減ブレーキ“AMB”や車両挙動安定装置“ESP®”、また、既に実用化されている運転注意力モニター“MDAS-Ⅲ”を初めとする様々な技術を取り入れています。

上述のような「環境」と「安全性」—この二つはお客様や社会の皆様から求められる非常に重要なテーマですが、これらの両分野においても、私たちがダイムラー・トラック部門の一員であることは大きな強みです。

昨年より私たちが採用した“All for you”という言葉には、「我々の企業活動のすべては、お客様はじめ社会の皆様のため」という意味がこめられています。これを合言葉に、私たちの目標である「お客様にとってNo.1企業」、「最も信頼される企業」になることを目指して企業活動を続けていく所存です。

私たちの企業姿勢を示す「環境・社会報告書」は、三菱ふそうとして今回で5号目となります。皆様の率直なご意見・ご感想を頂ければ幸いです。

※ESP®はダイムラー社の登録商標です。



三菱ふそうトラック・バス(株)
取締役社長(代表取締役)
最高経営責任者・CEO

ハラルド・ブルストラー

三菱ふそうの役割

三菱ふそうはアジア地域を担う一員として、また商品面では小型トラックの開発・生産拠点として、さらに技術面ではハイブリッド技術でプレゼンスを発揮し、部門内でこれからも重要な役割を担っています。



アジア戦略の拠点

ダイムラー・トラック部門の中で、アジア諸国のビジネスを担う一員として、重要な役割を果たします。



小型トラックの開発・生産拠点

「頑丈で信頼性がある」という評価に甘んじることなく、これからも確かな製品を提供していきます。



ハイブリッド電気自動車(HEV)技術のコンピテンス センター

省燃費、環境性能、そしてイーゼードライブを可能にする三菱ふそう独自の最先端技術、HEVシステムの開発拠点です。

